

主題研究推進計画案

1. 研究主題

各教科等における ICT を活用した「わかる授業」の創造
～児童同士が「対話」を通して理解を深める学習指導法を探って～

2. 主題設定の理由

(1) 学習指導要領と社会の要請等から

23年度から全面実施された学習指導要領では、学習内容が大幅に増えているのに対し、授業時数はさほど増えていないのが現状である。このことから、学校では、より効率的でよりわかる授業が求められていると考える。

学習指導要領総則「教育課程実施上の配慮事項」に、「情報手段に加え、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること」と明示されているように、**ICT を効果的に活用して学習活動の効率化を図り、わかる授業を創造していく**ことが子ども達の学力を保証していくために大切である。

また、このようにして「わかる授業」を創造することは、児童の能動的・内発的な学習意欲と積極的な授業態度の育成へとつながり、本市が取り組んでいる「小中一貫・連携教育」を実施する上でとても重要だと考える。中学校での学びがより主体的に行われるためにも、その基礎となる小学校の6年間で学習内容・学習規律・学ぶ姿勢をスモールステップで積み上げていき、作り上げていくことが「小中一貫・連携教育」で求められていると考える。

本校は、平成21年度末に各教室に電子黒板が配置され、その活用を中心として「わかる授業」の実現に向けて研究に取り組み、内外に発信してきた。また、**26度7月より、タブレット端末が40台配置された**。今後は、**各教科・領域等で、タブレットと電子黒板を活用した授業事例や活用の考え方などについて研究を深め、発信していく**ことが本校に課せられた使命であると考えます。

(2) 本校教育目標の具現化のために

本校の学校教育目標は「やさしく、たくましい子どもの育成」であり、目指す子ども像を下記のように設定している。

- ① 進んで学ぶ子ども
(自ら課題を見つけて、自力で解決しようとする意欲をもった子ども)
- ② 明るく元気な子ども
(健康に気をつけ、前向きに生きる子ども)
- ③ 仲良く協力する子ども
(互いのよさを認め合い、ともに伸びようとする子ども)
- ④ 安全に気をつけ、よく働き、責任をもつ子ども
(自他の生命を大切にし、自分の役割をよりよく果たす子ども)

①の「進んで学ぶ子ども」を具現化するためには、子ども達が主体的に取り組む「わかる授業」を実践していくことが大切である。

子ども達一人一人の思考を助け、**学習内容を深めるための ICT の効果的な活用の在り方を探ることは、本校教育目標具現化のために有効**であると考ええる。

(3) 児童の実態から

昨年度実施した第1学年から第5学年までの、国語、算数の CRT テスト及び第6学年の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、全国平均を若干上回るという結果であった。一概には言えないが、この結果から、今まで取り組んできた、ICT を活用した「わかる授業」の成果が出てきていることがわかる。ICT を一斉授業や個別学習などで活用すると学力低位層に学力向上の顕著な効果が見られ、特にデジタル教科書の活用には、顕著な効果があるという文科省等の調査結果もある。つまり、子どもたちの抽象的な概念をより具体的に図示したり、自分の考えをわかりやすく他者に表現し、伝えたり、共に学び合ったりするために ICT を活用することにより、コミュニケーションを深める表現力や、自分の考えをまとめることを助け、思考力の向上にもつながると考える。その中で、本年度は、昨年度に引き続きさらなる「わかる授業」を実現していくため、これまでの学習指導法や学習形態の工夫とともに、タブレットを活用した授業の構築を進めていく。そこで、一人一人の子どもたちの思考を助け、学習内容を深めるための活用の在り方を探ることは価値あることと考える。

(4) 昨年度の研究の成果から

昨年度、「表現」「思考」の繰り返しの場面における「対話」に活用の重点化を図り、授業構想を行った。その際『わかる授業』というものを、子どもが思考、表現を繰り返しながら、対話し、理解を深めていく授業と捉え直した。

授業での教師による ICT 活用については、研究当初「理解」の場面での ICT 活用による教材提示が主だったものから、「表現」「思考」の各場面で活用の方法や効果を明確にすることができるようになるなど、どの授業場面でも自然に電子黒板が活用されている段階にきていると実感している。

さらに、児童による ICT 活用については、児童の「思考」場面での活用を模索しながら、実践し、児童の話合いや学び合いの中で電子黒板を活用することが少しずつできてきている。その結果、ICT を活用し、自分の考えを深めることができる子どもが増えた。

今後も各教科・領域における ICT の効果的な活用の在り方を探り「わかる授業」の実現を図ることが必要である。

3. 研究仮説

各教科等の学習指導において、授業のねらいに即した ICT の活用をすれば、児童が思考の場面で対話し、理解を深め「わかる授業」が効果的に実現できるであろう。

4. 仮説実証のための着眼

(1)各活用場面での期待する効果と活用のポイントを明確にする。

タブレットや電子黒板を活用するとどのような効果が期待できるのか、また、そのためのタブレット・電子黒板の活用の留意点、つまり活用のポイントを明確にして1時間の授業を創っていくかを考えていく。

(2)児童同士の「対話」(発表者と聞き側、聞き側同士)に重点をおきながら、一人一人の児童の理解をより深める。(本年度の重点ポイント右図)

・・・対話とは、情報や気持ちを自由に交流しながら表現・思考を繰り返し、理解を深めたり経験を共有したりすることである。各学年ごとの対話の目標は次の通りである。



対 話		
情報や気持ちを自由に交流しながら表現・思考を 繰り返し、理解を深めたり経験を共有したりすること。		
	掲示物	付けたい力
低学年	<p>さあ たいわ しよう!</p> <p>うけとめる ★ あいづち ★ くりかえす</p> <p>しつもんする ★ しりたいこと ★ りゆう ★ たいげん・かんそう</p> <p>こたえる ★ はなしがそれない ★ りゆう ★ たいげん・かんそう</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考え、その理由を具体物を提示しながら話すことができる。 話す人の顔を見て、うなずきながら、最後まで話を聞くことができる。 相手を思いやりながら、友達の考えの分からないことを質問したり、よさを見付けたりすることができる。
中学年	<p>さあ 対話 しよう!</p> <p>受けとめる ★ あいづち ★ くりかえす ★ 言いかえる</p> <p>しつもんする ★ 知りたいこと ★ 理由 ★ 体験・感想 ★ 同じところ・ちがうところ</p> <p>話を進める ★ 整理する</p> <p>答える ★ 話がそれない ★ 理由 ★ 体験・感想 ★ 同じところ・ちがうところ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えやその理由を具体物や資料を活用し、分かりやすく伝えることができる。 友達の考えと自分の考えとの相違点を考えながら聞くことができる。 相手を思いやりながら質問したり、それに答えたりすることで互いの考えのよさに気付くことができる。
高学年	<p>さあ 対話 しよう!</p> <p>受けとめる ★ あいづち ★ くりかえす ★ 言いかえる ★ まとめる</p> <p>質問する ★ 知りたいこと ★ 理由 ★ 体験・感想 ★ 同じところ・ちがうところ ★ 良いところ・悪いところ</p> <p>話を進める ★ 整理する ★ 新しい見方</p> <p>答える ★ 話がそれない ★ 理由 ★ 体験・感想 ★ 同じところ・ちがうところ ★ 良いところ・悪いところ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや考えを伝えるために、客観的な資料を活用し、自分の考えに説得力を持たせたり、表情や態度を工夫したりすることができる。 自分の主張や根拠と対比しながら聞き、自他の主張の長所や短所に気付くことができる。 相手の考えや思いを受容し、相手の質問や反論に的確に反応し、対話を継続することができる。

授業の中にどのようにして児童同士の「対話」を生み、児童相互が伝え合い、学び合う児童主体の授業を成立させ、児童の理解を深めるかを考えていく。

その基盤として大切なものを次のように捉えることとした。

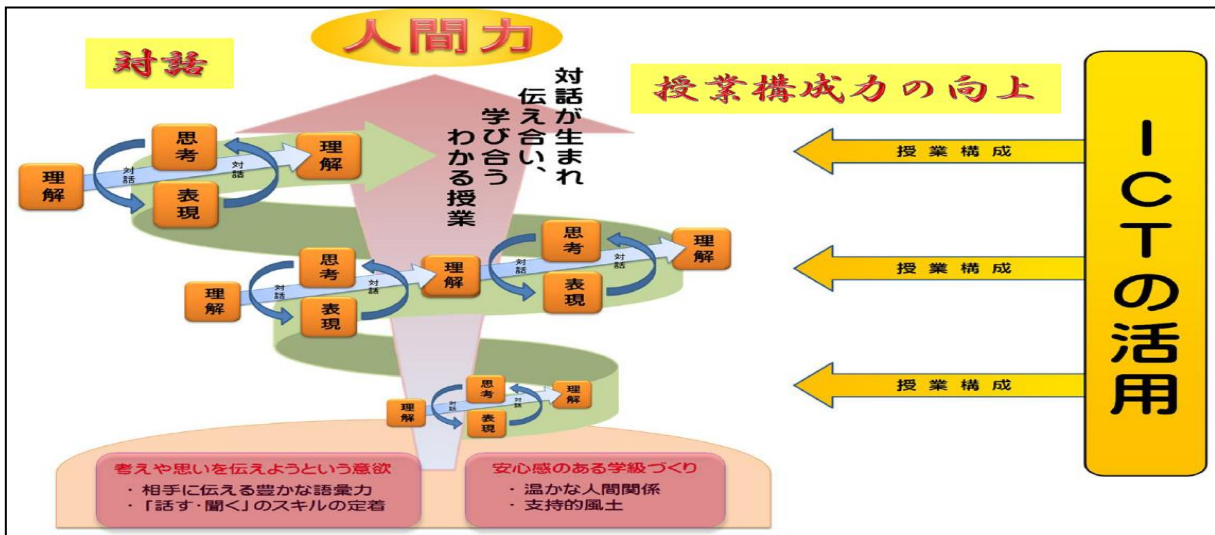
- 考えや思いを相手に伝えようとする意欲
 - ・相手に伝える豊かな語彙力
 - ・「話す」「聞く」のスキルの定着
- 安心感なる学級作り
 - ・豊かな人間関係
 - ・支持的風土

○ 授業構成力

児童の反応を見通し、どの場面でタブレットや電子黒板等を活用すれば、対話が生まれ「理解」を深める授業ができるかを考える力や児童相互で「対話」を生むことのできる発問の明確化

- ・活動の検証の在り方
- ・学習問題や発問の明確化
- ・指導と評価の一体化

上記内容を踏まえた、研究構想図は次の通りである。



(3) 黒板(板書)と ICT、それぞれの活用範囲を明確にする。

1 時間の授業の内容が分かるように、タブレットや電子黒板等をどのように活用し、黒板に何を残していくか板書計画をしっかりと考えていく。

5. 主題に対する基本的な考え方

(1) 「ICT を活用する」とは

ここで言う「ICT」とは、コンピュータ、タブレット、電子黒板、実物投影機、デジタルカメラ、ビデオ、プロジェクター等の ICT 機器のことである。そして、「活用する」とは、これらの ICT 機器と電子教科書やウェブ上のコンテンツ、コンピュータでの自作教材、デジタル画像や動画などの「教材」を授業のねらいを達成するために意図的・計画的に授業で使うことだと考える。

(2) 「わかる授業」とは

本校では「わかる授業」を次のように捉えるようにした。

- 授業のねらいが明確で、そのねらい達成のための学習活動が妥当である授業
- 子どもが課題を明確に捉え、主体的に追求活動をする授業
- 子どもたち同士の「わかり合う」場面ができるだけ多い授業
- 子ども達が「わかった」「できた」と実感し、充足感や満足感をもつ授業
- 子どもたち同士の伝え合いにより、思考が深まっていく授業
- 対話により思考が深まり、表現しようとする意欲が高まっていく授業

6. 研究の取り組み

(1) 研究参加メンバー

学習指導案検討	担当学年、近接学年、校長、教頭、研究推進委員長、研究主任、副主任
公開授業・協議会	全員

(2) 年次計画

1 年次（平成 28 年度）

- ◇ 学習指導過程の「思考」の場面で ICT を活用した効果的な「わかる授業」の創造
- ◇ 授業公開「実践交流会」を行う。
- ◇ 実践交流会で授業を公開しない学年は、A 研 1 実践を行う。
- ◇ A 研に関しては、外部講師を招聘する。

※ 主眼、単元計画、本時計画については、授業実施 2 週間前までに教務へ。

※ 指導案については、授業実施 1 週間前までに教務へ。

2 年次（平成 29 年度）

- ◇ 学習指導過程の「思考」の場面で ICT を活用した効果的な「わかる授業」の創造
- ◇ 授業公開「実践交流会」を行う。
- ◇ 実践交流会で授業を公開しない学年は、A 研 1 実践を行う。
- ◇ A 研に関しては、外部講師を招聘する。

3 年次（平成 30 年度）

- ◇ 学習指導過程の「思考」の場面で ICT を活用した効果的な「わかる授業」の創造
- ◇ 授業公開「実践交流会」を行う。
- ◇ 実践交流会で授業を公開しない学年は、A 研 1 実践を行う。
- ◇ A 研に関しては、外部講師を招聘する。
- ◇

7. 研修年間計画

	月 日	曜	研修内容
1 学期	5/11	水	ICT 操作研修会
	6/1	水	主題推進委員会
	6/22	水	主題研修 主題研究推進計画案
	6/29	水	主題研修授業者話合い（29日までに授業者を教務に報告）
夏季休業日	7/28	木	ICT 小中合同研修会（14:00～17:00）
			主題研教材研究日（夏の教室の午後学年で都合がつく日に）
			主題研教材研究日（学年で都合がつく日に） （森先生代表勤務日がお勧めです）
			指導主事の都合をもとに指導案作成日を設定する予定

2 学期	11 / 8	火	実践報告会
			主題研
			主題研

8.(基本的)学習指導案形式

第○学年○組 _____ 科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1. 単元名
2. 単元設定の理由
 - 児童観…（本学級の児童は、～）
 - ☆ この単元を学習するための能力の実態を記述する。
 - 学習集団としてのよさと課題
 - 本学習での子どもの実態と課題
 - 気になる児童の様子と学習での課題
 - 教材観…（児童はこれまでに～を学習してきている。本単元では、～）
 - ☆ この単元が、社会生活の中でどのように有効で、どのように必要とされているかというような教材の社会的価値を記述する。
 - 教材のねらいや研究仮説とのつながり
 - 子どもの課題と単元との結びつき
 - 指導観…（指導にあたっては、～）
 - ☆ 単元を通してこのように教えていくということを記述する。
 - 子ども達に培う力
 - 本単元構成における意図と工夫
3. 単元の目標…4観点について記述する。（例 国語科）

観点	目標
ア 国語への関心・意欲・態度	
イ 書く能力	
ウ 読む能力	
エ 言語についての関心・理解・技能	

4. 指導計画（総時数 時間）

次	ねらい	主な学習計画・内容	評価規準（主な評価方法）
1 (1)	○ ----- -----ことができる。	1 *****	【関】----- ----- (ワークシート・発言)
2 (3)	○ ----- -----できる。	2 *****	【話】----- ----- (発言・観察)

5 I C Tの活用について

- (1) 本時における I C T活用場面（タブレット・電子黒板等の活用を書かれてくだ

さい)

	活用場面	活用方法・ポイント	期待される子どもの姿・力
1			
2			

6 本時学習

- (1) 日時 平成27年*月*日(*) 第*校時 於：*学年*組教室
- (2) 主眼 …行動目標で記述(～を通して、～することができるようにする。など)
- (3) 準備…教師の準備するもの、児童に準備するもの
- (4) 展開

	学習活動	○指導・支援上の留意点	◇評価基準(主な評価方法)
導入	1 _____ — _____する。		
展開	2 _____ 3 _____		
終末	4 _____ _____		

その他

- * 座席表をつけましょう
- * A4 12ポイントで
- * 30部印刷
- * 原則として公開教室で協議会を行う。(1・3・6年のみ)
- * 協議会は、以下の内容にポイントを絞って協議する。
 - 研究仮説実証の着眼についてその有効性について
 - 主眼達成について
 - 参観者は、協議会後にコメントシートを提出
- * 評価は、学習中の評価の他に自己評価(4段階・記述式)を行う。
 - ICT活用のよさが現れるような記述を…
 - 「〇〇さんの意見で自分の考えが変わった」など友達との練り合い、学び合いによる変容がわかるような記述を…
- * まとめについては、後日提案

役割分担

授業記録、協議会記録、写真…近接学年